

■五色百人一首京都府大会ルール■

特に守ってほしいルール

- 自分の札を並べるとき、最後の1枚を置いてからの札移動はできません。
- 次の札が読まれたら、前に読まれた札をとってはいけません。
- 試合の途中で札移動はしません。(取って空いたスペースはつめません。)

<個人戦の試合手順>

1. じゃんけんに負けた選手が両手を後ろにして、自分にも相手にも見えないようにして札を二つに分ける。
2. 両者は自分の10枚を、横5列、縦2段に置きます。自分の札は自分の方に向け、お互いに**札の頭をつける**ようにします。
3. 札の位置を覚える時間(30秒～1分ほど)が与えられます。この時、自札・相手の札を裏返して見ることはできますが、場所の移動はできません。
4. 読み手が「あいさつをしましょう。」と言ったら、「よろしくお願いします。」とあいさつをし、**握手**をします。
5. 読み手は、**準決勝・決勝戦以外は、序歌を読みません。**序歌は、たとえば次のものです。「ご用意よければ空札一枚東海の 小島の磯の白砂に 我泣き濡れて 蟹と戯る」
6. 取った札は自分の手元に置いておきます。札の裏が審判に見えるように置きます。(左右は問いません。)
7. 両者の手が同時に札に触れた(ついた)ときには、ジャンケンで素早く決めます。手が上下に重なった時は、**下に手がある人の物**とします。
8. 次の札を読み始めたら、札を取る手の「手のひら」を**膝か太もも**につけておきます。手をかざしながら札をさがしてはいけません。
9. **間違えた札に触れたら「お手つき」と**なります。お手つきした場合には、自分の取った札から1枚、場に出さなければなりません。
10. 札は、**1度しか触れられません。(お手つきしてから正しい札を取っても無効です)**
 - ① 持ち札が無いときにお手つきが発生した場合は、1回休みとして次の札をとることができません。
 - ② 自分の前の10枚でも、相手の前の10枚でも、どこの札であっても同じようにお手つきとします。
 - ③ 2人の間にお手付き用の「場」を、左右のどこかに作り、お手つきの札はそこに重ねて置いておきます。
 - ④ 「場」の札は、次の札を取った人が1枚だけもらえます。
 - ⑤ 試合終了後に、「場」に札が置かれていることもあり得ます。
11. 17枚を読み上げた時点で、多くの札を取っていた方が勝ちとなります。
同数の場合は、「勝敗を決める1枚」として、18枚目を読み上げます。この札を取った方が勝ち、または、この札の読みのお手つきをした子の負けとします。なお、この札は予選の合計枚数には加えません。
12. 全ての試合で勝負がついたら、あいさつをして試合終了です。
13. 勝敗は**審判が記録**します。記録するまでは札をまとめません。

②色別一般の部及び色別エキスパートの部の進行

〈予選〉

1. 受付でひいたくじの番号で対戦相手が決まります。
2. 全員が3試合ずつ戦います。
3. 当日の欠席等で不戦勝の場合もあります。
(その場合は9枚を得て、勝者ということになります)
4. 予選終了後、3勝した者から起立し、試合の合計枚数の多い順に決勝トーナメント進出と順位を決定する。
5. 札の枚数も同じ場合は、その場でもう1試合を行い、勝敗を決し、決勝トーナメント進出と順位を決定する。

〈決勝トーナメント〉

1. 対戦は、自動的に決まります。
2. 予選の結果が、1位対4位、2位と3位の児童が対戦します。
3. 1位(1名)、2位(1名)、3位(2名)を決めます。
4. 3位決定戦は行いません。